

# 五穀豊穰 祈る

## 御園神社秋祭

収穫への感謝と五穀豊穰を祈る御園神社秋祭が10月8日、上奈良地区で開催。コロナ禍以来、4年ぶりとなった同祭は、京都府登録無形民俗文化財の「ずいきみこし」の巡行や芸能の奉納などがあり、神社や沿道は、多くの観客でにぎわいました。奈良時代、野菜を朝廷に献上していたことになんて作られたとされる「ずいきみこし」。この日のために、区内の老人会「御園クラブ」がサト

## 「ずいきみこし」4年ぶり巡行

イモの茎（ズイキ）で屋根をふき、トウガラシや栗、ミョウガなど約30種類の青果で飾り付けたみこしを完成させました。法被姿の大人や子どもらが、元気の掛け声を響かせながら区内を巡行したあと、高張り提灯を先頭に同神社へ向かいました。

境内到着後「いっぺん笑えー」などの掛け声で、氏子らが「ワハハ」と三唱。続いて、天狗の面をつけた子どもや若者2人の獅子舞が奉納されると、観客から拍手と歓声が上がっていました。



「ずいきみこし」を担いで境内を往復する担ぎ手たち

## エジソンメダル受賞 松波さん講演



八幡市在住の松波弘之・京都大学名誉教授の特別記念講演会が10月14日、文化センター小ホールで開催。「半導体SiC（シリコンカーバイド）と私たちの未来」をテーマに187人が耳を傾けました。松波さんは、次世代半導体の材料として注目されるSiCの実用化への貢献が評価され、今年5月に電気電子工学分野の世界的学会「IEEE」のエジソンメダルを受賞。同分野においてノーベル賞に比

類する名誉とされ、日本人での受賞は4人目。講演では、約54年にわたる松波さんの研究の軌跡を成果とともに紹介。電力ロスが少なく、自動車や新幹線など、一部で実用化されています。将来展望として「SiCパワー半導体が安価になれば、家庭の白物家電にも使える」と語られ、若者には「自分を客観的に見ることと人と違うことをやる勇氣を持ってほしい」とエールを送られていました。講演後、来場者がSiCパワー半導体材料とメダルを間近で見学できる場が設けられ、松波さんは来場者との交流を楽しまれました。

# まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

## 実りの秋 児童が収穫体験



収穫したサツマイモを見せ合う児童

10月10日、岩田西風の畑で農業体験学習が行われ、南山小学校3年生34人が参加。児童は、5月に植え付けたサツマイモと落花生の収穫を楽しみました。

同学習は、市教育委員会が、市民協働事業の一環で八幡農業ボランティアの会と連携し、児童に土に触れる楽しさを体験してもらおうと毎年実施しています。

同会員によるイモの収穫の様子を見学した後、

### 南山小学校3年生34人

軍手をはめた児童はイモ掘りに挑戦。土から出たツタをたどって慎重に土をかき分け、イモを掘り出すと「僕のほうが大きい！」とあちこちで歓声が上がっていました。

続いて、落花生の収穫にも挑戦。児童は「せいの」と力を合わせて茎を引っ張り、土の中から鈴なりに実った落花生を次々と掘り出していました。

角谷螢介くん(8)は「イモは、土がかたくて抜きにくかったけど、思ったより大量！ チップスにして食べたい」と話していました。

## 今月のこの人

## 農業体験で食の大切さ伝える



井尻雅之さん  
令和元年から「八幡農業ボランティアの会」会長を務める。八幡市在住。

「農業の経験がないまま参加しましたが、会員同志で協力しあい、作物の成長を見守るのが楽しい」と農業の醍醐味を語るのは「八幡農業ボランティアの会」会長の井尻雅之さん。同会は、平成14年に発足し、現在の会員数は20人。小学校の農業体験や一般向けの収穫体験などを通じて、地産地消

の推進や食と農の大切さを知ってもらおうと日々活動しています。拠点とする岩田西風の畑では、春はジャガイモ、秋はサツマイモと落花生、冬は大根など、季節の旬の野菜を栽培。これら作物の収穫体験は大好

評で、予約はすぐ満杯に。「収穫までの作物のケアは大変だけど、参加者が喜んでくれると嬉しい」と微笑みます。普段の生活では、なかなか土に触れる機会も少ないため「作物が育つ過程は、お店で野菜を買うだけではわからない。体験すると面白く、食の大切さを知ることにもつながることを伝えたい」と話しています。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。